

令和2年度厚木市里地里山保全等団体意見交換会会議録

- 1 日 時 令和2年9月11日（金）午後3時から5時まで
- 2 場 所 厚木市本庁舎4階大会議室
- 3 出席者 厚木市里地里山保全等促進委員会委員 5人  
事務局（環境農政部長、環境政策課長、環境政策係長、環境政策係主査）4人  
里地里山保全活動団体会員 11人
- 4 会議主管課 環境政策課
- 5 案 件 里地里山保全等活動団体の現状と課題、連携について（資料3）
- 6 会 議 録 次のとおり

事務局	【1 開会】 －厚木市里地里山保全等団体意見交換会開催の旨伝える。－
委員長	【2 あいさつ】 それでは、令和2年度厚木市里地里山保全等団体意見交換会を開催します。 昨今、里地里山保全の意義は大きくなりつつあります。現在、市では厚木市里地里山保全等促進計画の次期計画を策定中です。 活動団体の皆様には、活動の課題等もあるかと思えます。この機会に保全に関する情報、理念の共有と、課題解決に向け英知を集結し、より良い活動をしていただければと思います。
環境農政部長	みなさん、こんにちは。環境農政部長の小泉と申します。 どうぞよろしくお願いたします。 本日はお忙しい中、活動団体意見交換会にご出席いただきありがとうございます。 まず、はじめに今回参加されております7つの活動団体の皆さまには、今年の2月1日に行われました、厚木市の表彰式において小林市長から特別感謝状が贈られました。誠にめでたうございます。 日ごろの皆様の活動が評価につながったものと思います。今後の活動にも、なお一層の励みにもなることでしょうし、会員の皆様のご活躍にも期待したいと思います。 少し、コロナウイルスの関係のお話しをさせていただきたいと思

<p>環境農政部長</p>	<p>ます。5月下旬に緊急事態宣言が解除されましたが、まだまだ終息には至っていないところでございます。厚木市でも9月10日現在で、153の方が感染しているという状況であります。市といたしましても、対応には万全の体制で取り組んでおりますので、皆様のご理解をいただければと思います。</p> <p>さて、話は変わりますが、不動産の情報を分析する総合研究所という会社がございまして、9月8日に「コロナ禍での借りて住みたい街ランキング（首都圏版）」というものが発表されました。その中で本厚木が1位になったということでございます。ランキングの主なポイントとしましては、本厚木が都心の郊外エリアの代表格といったことで、トップになったということです。本厚木駅は東京都心から約45km離れている場所ではございますが、小田急線の快速急行も停車する駅でして、新宿まで約1時間で出られる立地条件でございます。新型コロナウイルスの影響を可能な限り避けたいといった意向や、テレワークや在宅勤務を導入する企業が増え、毎日の通勤時間を考慮しなくても良くなったということで、都心近くの利便性だけでなく安全性、安心感にも着目して暮らしたい、という意識の高まりが伺えるところでもあります。</p> <p>また、中心市街地のにぎわいに関する取組も進めているところではありまして、駅前の土地の公示価格が7月に発表されましたが、路線価の上昇にも影響しているといったところでございます。</p> <p>その中で、本市は自然と都市が調和した暮らしやすさに加え、交通利便性が高い街でございます。大山や相模川をはじめとした豊かな自然環境に恵まれていることに併せまして、都心から一番近い温泉が楽しめる観光資源にも恵まれた魅力ある街でございます。</p> <p>住み続けたい理由や、市のイメージの上位には自然環境が豊かであるということが挙げられてございます。豊かな自然環境と、生活に欠かせない都市機能が調和した、暮らしやすいまちづくりが評価されているところではないかと考えます。厚木市の取組といたしましても、恵まれた環境を生かしながら、市民の皆さまが暮らしやすい街を目指しておりますので、ご支援の程、よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、活動団体の皆様の現状と課題、連携について、短い時間ではございますが、活発なお話し合いがされますよう、よろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員と団体の皆様との意見交換会は初めてということで、まずは委員に自己紹介していただき、その後に活動団体の方に活動内容を含めた紹介をお願いします。</p> <p>まずは、改めて委員長からお願いします。</p>

	<p>【委員、活動団体、事務局それぞれの自己紹介】</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>さて、事前に郵送等で送付していますが、資料を確認させていただきます。</p> <p>まず、「令和2年度第2回厚木市里地里山保全等団体意見交換会名簿」で、本日出席されている委員と活動団体の皆様の情報です。</p> <p>次に、「資料3 里地里山保全等活動団体の現状と課題、連携について」です。資料番号が3となっていますが、先程の委員会の資料の番号から連続しています。</p> <p>資料については以上です。</p> <p>それでは、ただ今から案件に入ります。意見交換会の議事の進行は、里地里山促進委員会から引き続き、委員長をお願いします。</p>
委員長	<p>それでは案件に入っていきたいと思います。</p> <p>事務局から、「資料3 里地里山保全等活動団体の現状と課題、連携について」の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【3 里地里山保全等活動団体の現状と課題、連携について（資料3）の説明】</p>
委員長	<p>ご説明ありがとうございます。なお、資料3で「地域資源」を敢えて書いてもらったのは、保全活動をしていくにあたり、地域や人の強みをアピールし、ボランティアだけではなく来てくれる方々に向けてプロモーションしていきたいという意図があります。市の方からも、今後、積極的にプロモーション活動をしていくという話を聞いています。</p> <p>さて、今から意見交換を始めたいと思います。各団体で共通する話題は、高齢化や後継者不足の課題かと思います。「荻野三つ沢の里山を守る会」では、「サポート隊」が上手く機能しているという話がありました。</p> <p>高齢化や後継者育成にどのように対応しているのか、また皆様がどう考えているか、自由にご意見ををお願いします。</p>
A氏	<p>後継者として、地元の人に入ってもらえないのが最も大きな問題です。地元の人には作業の知識があることが多いですが、一般のボランティアの場合、頼めることに限界があります。したがって、円滑な活動のためには地元の人が必要だと考えています。</p> <p>そこで、地元の人に少しでも多く参加してもらおうのに、いい案はありませんか。</p>

委員長	<p>地元の人を呼び込む工夫について、ご意見はどうでしょうか。</p>
B氏	<p>当団体では七沢地区に加え、森の里地区の人が非常に多く、心強く思っています。この地域では定年を過ぎて、家にいる人が多いようです。近隣の他地区の住民から、参加者を探すのが良いのではないのでしょうか。</p> <p>また、大学や企業との連携も、人材確保の手段の一つだと思います。当団体では今年、新たに企業ボランティアの打診が1社ありました。コロナ禍により今年の参加は難しいですが、来年以降も続けていきたいと考えています。</p>
委員長	<p>企業等を巻き込むことも方法の一つということですね。</p> <p>ほかのご意見はどうでしょうか。</p>
C氏	<p>定年後、実家に戻った人で農業をやりたい人は多いようですが、長男が田畑を継いでいると、次男や三男には土地がありません。一方、土地はあっても後継がなく、困っている人もいます。それらがかみ合えば上手くいくのではないのでしょうか。</p> <p>つまり、地域で定年退職した人で、農業をする土地を求める人を探すという方法が考えられます。</p>
D氏	<p>違う地域、地区から人を探すことは継続的な活動を考えると難しいため、やはり活動地域から人材を探すのが良いと思います。</p>
委員長	<p>ここまでの意見で考えると、定年退職した人への働きかけが必要かもしれません。</p>
D氏	<p>当団体は、一昨年、昨年と続けて会員が増えました。</p> <p>きっかけは、月に1回から2回行う会食でした。</p> <p>活動の中心が山の斜面での作業なので、雨が降ったら中止します。遠方の方は急な予定変更が難しいため、先に年間スケジュールを決めています。</p>
E氏	<p>当団体でも、森の里地区の女性が1、2名活動しています。</p> <p>また、東京農業大学の学生も参加しており、荒れている竹藪の整備をしてもらっています。</p>
委員長	<p>「みどりと清流のふるさと創造委員会」の活動には幅広いコンテンツがあり、祭りや花の里に訪れる人たちがいます。長期的な視点で見れば、こうした参加がふるさとへの帰属意識につながり、ゆくゆくは</p>

	<p>会員になる可能性もあります。</p> <p>また、「飯山農楽校」はほかの団体と若干異なり、クラインガルテンのような形式で、市民に里地里山を楽しんでもらうものです。参加の会員が、活動を自分のためだけではなく、社会のために広げていくベクトルに向かわせることは可能であるか、「飯山農楽校」のFさんはどう考えますか。</p>
F氏	<p>可能だと思います。「飯山農楽校」では会員の女性2名が、「みどりと清流のふるさと創造委員会」を手伝っています。手伝いのことを会員全体に話すと、そのうち花が好きな1、2名が興味をもってくれるので、今後も手伝ってもらおう予定です。</p>
委員長	<p>人員募集に関連して、「荻野三つ沢の里山を守る会」から、「サポート隊」を確保する手法についていかがでしょうか。</p>
G氏	<p>市からボランティアで来る人に対し、サポート隊のメリットを含めた呼びかけをします。つまりサポート隊は、自分の意志で入ってくれる、「やる気」のある人たちです。</p>
委員長	<p>募集は、市にサポートしてもらっているということでしょうか。</p>
G氏	<p>私からボランティアに呼びかけます。私は活動を始めて15年程になりますが、当団体の前会長が後継者を育てる計画があまりなかったようでした。今は、サポート隊に田植え等もしてもらい、年々のレベルアップをはかっていっています。</p>
委員長	<p>その人たちはあくまでサポートの役割ですか。それとも会員になってもらいますか。</p>
G氏	<p>ゆくゆくは会員となり、後継者として次世代を担ってもらいたいと考えています。</p>
委員長	<p>サポート隊は、男女どちらが多いですか。また年齢はどうでしょうか。</p>
G氏	<p>中年の男性が多いです。若い人も30代の男性が1名いたので、私がスカウトして、サポート隊になってもらいました。</p>
委員長	<p>「特定非営利活動法人ゆめのシステムプロジェクト」は、会員の確保や、サポート隊のような活動はしていますか。</p>

J氏	私は詳細を把握していませんが、人員確保に関する具体的な活動はしていないと思います。今の会員は、当団体に以前所属していた人の紹介で入ってきています。現役を引退して、農業をしていた人がその友達に声をかけたりなどです。
委員長	今出た意見で、最初に発言されたAさんは、参考になったでしょうか。
A氏	はい。特に若手の担い手が大切だと思いました。東京農業大学の卒業生が個人事業を始め、野菜を売っています。自分たちで作った野菜を販売できたりすると活気が出て、後継者の増加につながるのではないかと思います。
委員長	ありがとうございました。人材育成や会員の高齢化について、委員の方の意見はどうでしょうか。
H委員	神奈川県としては、可能な支援を毎年考えています。 ボランティアの確保については、森林部局の森林ボランティア制度や、県の里地里山ボランティア募集の活用を検討したこともあります。しかし、先程のご意見のように、地域の特性や管理の問題もあり、地域に入り込んで定着してもらえなければ実のあるものにならないと思います。ボランティアから始め、地域にどう定着していくか、今後検討していきたいと思います。
I委員	私は、子供が参加する「水辺の生き物調査隊」を作り、月1回程度で活動をしています。この活動は始めたら必ず1年間続ける必要があります。4年程続けてやっていると親の方が積極的になり、親子で自然を好きになることがあります。このように、里地里山に親しむ活動の継続も、後継者育成につながると思います。
委員長	「七沢里山づくりの会」や「NPO法人里山ネット・あつぎ」では、企業も活動に参加しており、子供やファミリーの参加もあると思います。I委員から出た意見のように、家族をターゲットにすることは大変重要です。ただちには会員増加にはつながらないかもしれませんが、長期的な視点で、継続していくことが大切だと勉強になりました。 考え方の共有は、里地里山保全のボトムアップにつながります。
D氏	さて、別の話題にいきたいと思いますが、意見はありますか。 ボランティアが怪我をしたとき、保険はどうなっていますか。当団体は斜面での活動のため、怪我が多いです。当団体では活動の度に、会員に保険に入ってもらっています。

	<p>県の募集でボランティアに来る人は、県が保険をかけているということでしょうか。</p>
H委員	<p>里地里山ボランティア制度は検討段階ですが、県で主催する体験学校の場合は、保険に入ってもらっています。里地里山ボランティア制度を作る際には、きちんと考えたものにしたいと思います。</p>
委員長	<p>「NPO法人里山ネット・あつぎ」では、学生や企業のボランティアを受け入れています。東京農業大学のボランティア部の場合、必ずボランティア活動保険等に入っていますが、企業はどうでしょうか。</p>
C氏	<p>学生も日産自動車(株)もボランティア活動保険に入っているため、問題ありません。考える必要があるのは会員です。そのほかにも個人のボランティア、組織に所属していない人が怪我すると、困る事例になりそうです。</p> <p>また、木の伐採は、刈払い機の場合を除き、一般の保険の対象に含まれていないかと思います。私たちが伐採する時は、その日だけの保険をかけられる「グリーンボランティア保険」を利用することもあります。</p>
委員長	<p>旅行者など、その日だけ参加するボランティアはこれからも増えると思います。「飯山農楽校」は基本的に保険に入っているかと思います。</p>
F氏	<p>入っています。</p>
委員長	<p>1日だけ参加のボランティアに対し、市で支援はありますか。</p>
事務局	<p>本市でボランティアを募集する「里山マルチライブプラン」等では、市が保険に加入しています。ただし、軽い怪我程度は少額で、大きな事故があった場合に補償が出るような保険です。これらを参加者にも伝えていますが、保険に関してはPR不足だったと思うので、今後はPRを強化していきます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。県でも今後、制度構築の際には保険の検討をしてくれるということでした。Dさん、これでよろしいでしょうか。</p>
D氏 委員長	<p>はい。ありがとうございます。 他にありませんか。</p>
A氏	<p>活動している田んぼには、アカハライモリやシオカラトンボ、マユ</p>

	<p>タテアカネ、イトトンボ等が生息していますが、これらの保全の方法、対応を聞きたいです。</p>
I 委員	<p>除草の際は、畔を少し残し、背の低い場所を作ってもらえれば十分だと思います。一番影響が大きいのは農薬です。ヘイケボタル等のホタルは生息していますか。</p>
A 氏	<p>ヘイケボタルは見かけていません。 米作りに除草剤や消毒剤を使いますが、生き物への影響は大きいのでしょうか。</p>
I 委員	<p>除草剤の界面活性剤がよくないとされています。例えば、水面に浮く昆虫に影響があります。ミズスマシは、数を減らしました。ただし、アメンボは、まだ沢山いるため大きな影響とはいえないかもしれません。 その他に、特に影響が大きいのは 1990 年代頃から販売された農薬です。生物への影響が少ない農薬もあるため、調べてから使う必要があります。</p>
委員長	<p>雑木林の法面の管理で、高齢化に伴い下草刈りが大変という話がありました。このため除草剤を使うのですが、特にグリホサート系の除草剤、例えば、ラウンドアップは影響が大きいと言われています。昆虫等の動物から植物まで、環境全体への影響が大きいです。ドイツの製薬会社バイエルは、ラウンドアップの発がん性で訴訟を受けました。 里地里山での下草刈りは、大変な作業ですが、こういうことも意識していただければと思います。 ところで、里山づくりの会さんは、昔、マコモを栽培していました。マコモには自然環境に素晴らしい効果があります。 マコモによって湛水状態が作られ、生物多様性の保全を助けますし、食用にして食事会の開催等もできますので、再び栽培されると良いと思います。 ほかに意見はありますか。</p>
I 委員	<p>生き物に関して、厚木には、昔から飼われているメダカはいましたが、それ以外は、誰かが逃したメダカであり広く分布が見られていません。ヒメダカまでいます。 なお、皆様には是非、冬期湛水「冬水たんぼ」を、お願いしたいと思います。冬時期の田んぼにも水を張って頂きたいのです。色々な生き物の逃げ場になり、生き物が増えます。</p>

委員長	<p>福井の越前市には、コウノトリがいます。生息地の水田は、水を張っており、マコモも育てています。</p> <p>コウノトリのエサとなるドジョウも多く生息しています。</p> <p>このように、生物多様性のためには、「冬水たんぼ」やマコモが有効となります。コウノトリのような象徴的な生物がいる環境は、水稲のブランディングに役立ちます。「里山育ちの米」「安全安心」等のネーミングにより、安心・安全な農産物をプロモーションするのが大事です。</p>
K委員	<p>最近の用水路は、U字溝が多く、川もコンクリート三面張りで、水生生物の多様性が低下していると思います。</p> <p>人間の改変によってメダカやドジョウが減る等、人の生活が水生生物や植物種の存続に影響を与えているのではないのでしょうか。昔いたウナギも減っていると思います。</p>
委員長	<p>三面張りの対策として、用水路に落ちたカエル等の生き物が、そこから出られるスロープ等を設けている事例もあります。</p>
L氏	<p>私たちは無農薬の米作りと同時に、冬期湛水をしています。そうすると、ドジョウやメダカが増えます。現在、多くの水田では、半年間は水を抜き乾田化しています。水を抜くと、干上がってメダカ等多くの生物が死んでしまいましたが、水を張ったままにできない理由を教えてください。</p>
委員長	<p>水田は、農業生産が一番の目的となります。収量を増やし、品質を向上させるには、冬期に乾田化した方が有利です。中干しも同様の理由です。</p> <p>この対策として、コウノトリを育む会の事例があります。コウノトリを育む会では、退避場所として、水路近くに水を張っています。全面を乾田化するより収量は落ちますが、生き物のために常時湛水のスペース（退避溝）を設けています。このような生物多様性の保全が、ブランディングに一役買っています。</p> <p>ほかに意見はありますか。</p>
M委員	<p>人材確保についてのボランティアに関する紹介です。神奈川県は森林ボランティア活動は下草刈りや除伐をしますが、市民の関心が高く、毎回 50 名程の人が集まります。</p>
N氏	<p>参加の 50 名はリピーターですか。</p>

M委員	<p>リピーターが多いですが、学生や企業CSRによる参加もあります。新しく参加する人も多いです。</p>
N氏	<p>活動の当初、植樹祭ではボランティアを広く募集し、80名程で行っていましたが、その中で会員になる人がいるかと期待しましたが、継続して活動する会員の増加にはつながりませんでした。</p>
委員長	<p>私の経験から、ボランティアに積極的な学生は骨身を惜しみませんし、またやりたいと言う学生も多いです。彼ら进行评估する、褒める工夫をすることで、活動のリピーターになっていくのではないのでしょうか。危険な作業に注意する必要がありますが、活動が大変だから来ないわけではないと思います。評価し、褒めることを心掛けてもらえればと思います。</p>
O氏	<p>私は活動を始めて3年目ですが、皆様の深い知識と経験からの話を聞き、大変勉強になりました。今後も、学生と企業の協力やコラボレーションが重要だと思います。ボランティアに関わる学生が就職活動する際、面接の評価等でメリットはありますか。</p>
委員長	<p>内容にもよりますが、面接官の印象が良い活動は、評価につながるようです。</p>
D氏	<p>以前、神奈川工科大学の学生が祭りを手伝ってくれ、お礼を言いに行きました。彼らは一生懸命やってくれたので、先程の話のとおり、評価と褒めることは重要だと感じました。</p>
委員長	<p>活動後お礼をされたということです。こうした成果を認めることは、参加者の自己実現にもつながります。</p> <p>さて、ほかにも活動の課題等はあるかと思いますが、今回は初めての意見交換会なので、今後また情報や理念を共有していきましょう。</p> <p>皆様の活動が、地域の環境をより良いものにし、さらに個人の幸福にもつながると信じています。皆様には、これからも楽しく活動してもらいたいと思います。</p>
事務局	<p>宮田委員長、議事進行をありがとうございました。</p> <p>それでは「案件4 その他」になりますが、案件にないものや、意見、質問、連絡事項はございますか。</p> <p><b>【4 その他】</b></p>

N氏	<p>どの活動団体でも予算が課題だと思います。</p> <p>当団体は販売のための作物を作っていないため、資金調達が必要です。現在は企業の環境財団の補助金を受けていますが、このほかにも利用可能な補助金等はありませんか。</p>
事務局	<p>本日参加の7団体のうち6団体は、本市に加え、神奈川県も補助を受けています。条件を満たしていれば、県の補助を受けることが可能と思います。</p>
事務局	<p>ほかに意見はございますか。</p>
M委員	<p>私からは要望です。本日は第一回の意見交換会ですが、今後も会を継続してほしいと思います。</p> <p>また、保全活動を行う現場を実際に見たいので、機会をぜひ作ってもらいたいです。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>その他の意見はございますか。</p> <p>ないようですので、本日の意見交換会を閉会させていただきます。</p> <p><b>【5 閉会】</b></p>